

<中間評価>

| | | | | | |
|---------|---|-----------------|------------|------|---------|
| 研究番号 | 2 | 担当部 | 健康・食品安全科学部 | 研究期間 | 令和4～6年度 |
| 研究課題名 | 石川県におけるパレコウイルスA感染症の実態解明に関する研究 | | | | |
| 研究目的 | 近年、新生児・乳児に敗血症様の症状を示すウイルス感染症としてパレコウイルスA (PeV-A) 感染症、特にPeV-A3が注目されているが、医療機関等では検査診断ができないことから、その疫学や実態は不明な点が多い。本研究では、PeV-A感染症を疑う症例についてPeV-A等のウイルス検索を行い、PeV-A感染症の実態解明をする。 | | | | |
| これまでの成果 | <p>(1) 6歳以下の小児 8症例31検体の提出があり、2症例8検体からPeV-A3が検出された。</p> <p>(2) (1)でPeV-Aが検出された患者の濃厚接触者 2症例の濃厚接触者についてPeV-Aを検索した結果、1症例の同居家族3人のうち2人、他の1症例の同居家族5人のうち2人からPeV-A3が検出された。</p> | | | | |
| 評価結果 | A | 優先して継続していくべきである | | | |
| 委員会意見 | <p>成人、小児において流行性筋痛症患者から検出されることがあるパレコウイルスAについて、病院と連携して濃厚接触者を含めて調査を行っていることは非常に意義があると思われる。令和5年度は検体数が多いということであるので、さらなる解明ができることが期待される。</p> <p>PeV-A感染症の実態解明が、なされると診断、治療が改善され、地域住民はもとより、広く恩恵が及ぶ。家族の協力が得られたことは、医師の関心の高さを示すとともに、当研究グループが医療機関と良い関係を保たれている証と思う。是非、継続し、診断等の改善につなげられたい。</p> <p>本感染症は、小児科疾患であるが、患者の同居家族に糞便検査を実施し、無症状の同胞や親、2家族4名の糞便中からパレコウイルスが検出されたことは、感染経路を考える上で、大変興味深い結果と思われる。また、本感染症を疑った小児例についてもパレコウイルス以外のウイルスの検索もでき、パレコウイルス症例は、ほとんど全ての検体でウイルスが検出できるなど、鑑別診断に有用な知見が得られたことも臨床医学的に重要であると考えられる。本年度も患者とその家族についての調査を中心に継続して行くことにより、他の地域では実施できない貴重な研究となると考えられる。</p> <p>件数が限定的である点で何らかの結論を出すには時期尚早の感があるが、継続的に調査を実施していくことで、より詳細な知見の蓄積が期待される調査である。母子関係などの濃厚接触が考えられる関係性も存在することから、特に家族内のサンプリングでは、各人の関係性を含めた属性の取得が望まれる。</p> <p>いかにして検体を集め、事例を積み重ねるかが課題と思われます。事業の更なる周知や、対象者への積極的な働きかけをお願いします。</p> <p>小児(6歳以下)や新生児だけではなく全年齢対象の実態調査により、困難な感染経路の追跡、解明につながるのではと思います。大いに期待しています。</p> | | | | |